



講演会 **受講無料!**

自己研鑽してみませんか?

YEGとは? → HP <http://scyeg.net/>

三浦雄一郎が語る



『挑戦』
困難を如何に克服するか

平成29年

2月17日(金) 先着**200名**

〔開場〕18:30 〔開演〕19:00~

〔主催〕四国中央商工会議所青年部
〒799-0111 愛媛県四国中央市金生町下分865
〔お問合せ〕事務局(角川まで)
TEL 0896-58-3530

ホテルグランフォーレ 〒799-0403 愛媛県四国中央市三島朝日1丁目1-30
TEL 0896-23-3355

申込書

※4名以上の場合この申込書をコピーしてください

四国中央商工会議所青年部 事務局 宛

FAX:0896-58-6294 このままご送信ください

締切日 **1月31日(火)**

※先着200名となっておりますのでお早めにお申込ください。
定員を超えた場合はお断りさせて頂きますのでご了承ください。

事業所名

TEL

所在地

FAX

受講者名		受講者名	
受講者名		受講者名	

profile

みうら ゆういちろう
三浦 雄一郎



攻める健康法 ～ 80歳エベレスト登頂 ～

2013年5月、三浦雄一郎は3度目の世界最高峰エベレスト山(8848m)登頂に成功し、世界最老年齢(80歳)での登頂記録を樹立しました。

70歳(03年)と75歳(08年)。過去に、70歳代で2度のエベレスト登頂を成し遂げましたが、翌09年にスキー場で骨盤と左大腿骨の付け根を骨折する大怪我を負い、76歳からの完全復活は、ほぼありえないと思われました。しかし、エベレストへ向けた強い意志と、山への憧れが驚異的な回復をもたらし、半年後にはトレーニングを再開。2度の不整脈手術を乗り越え、3度目となる80歳での登頂に挑みました。

標高8848m、酸素濃度は平地の4分の1。地球上で最も宇宙に近いエベレスト山頂で、80歳の三浦雄一郎の体力年齢は150歳になるともいわれ、山頂を極めるには不整脈の克服のみならず、人類の可能性の扉を開くべく、究極の(アンチエイジング抗加齢)の試みとなりました。そして様々なハードルを越え、遂に2013年5月23日、80歳と7ヶ月にして、エベレストの頂上に辿り着きました。山頂からの第一声は「最高の気分だ。疲れたけど、80歳でもまだまだいける。ありがとう。最高の宝物を授かった」・・・というもの。

三浦の挑戦の原動力は飽くなき「好奇心」と夢を追い続ける心、そして登頂を可能にしたのは自らあみだした健康法。

冒険家として若い頃はスピードスキー競技、世界7大陸最高

峰からの滑降・・・など様々な世界記録をうちたてた三浦雄一郎ですが、60歳を境に、身体と心に脂肪がつき、いつのまにか陥っていた「メタボリック症候群」。人生においてリタイヤを意識したそのときに、101歳まで大いなる探究心をもってスキーを続けていた父・敬三、そしてオリンピックで活躍していた息子・豪太らの姿を見て再び心にスイッチが入ったのです。サミュエル・ウルマンの「青春」の詩にあるように、<青春>は心の在りようと同時に、「生きがい」を持つことによって身体も若返ることができる。老いは避けられないものではありませんが、人生と向き合い、目標を持つことによって元気に明るく生きる工夫と努力。それぞれの目標<エベレスト>を持つ意義と、家族と人の絆の大切さ、そして新たな挑戦について語ります。

略歴 肩書き:(プロスキーヤー、クラーク記念国際高等学校校長)

1932年青森市に生まれる。北海道大学獣医学部卒業後、1964年イタリア・キロメートルランセに日本人として初めて参加、時速172.084キロの当時の世界新記録樹立。1966年富士山直滑降。1970年エベレスト・サウスコル8000m世界最高地点スキー滑降(ギネス認定)を成し遂げ、その記録映画 [THE MAN WHO SKIED DOWN EVEREST] はアカデミー賞を受賞。1985年世界七大陸最高峰のスキー滑降を完全達成。2003年70歳、2008年75歳、そして2013年80歳にて3度にわたり世界最高峰エベレスト山(8848m)登頂を果たし、人類の新たな可能性を押し広げ世界最高齢登頂記録を更新するとともに、次男で元オリンピック選手の豪太との2度にわたる親子同時登頂の世界記録も樹立する。プロスキーヤー・冒険家としてだけでなく、全国で1万人以上が在籍する広域通信制高校、クラーク記念国際高等学校の校長としても活動している。記録映画、写真集、著書多数。

賞

プロスポーツ大賞殊勲賞、スペイン山岳会名誉会員、アカデミー賞長編記録映画部門、世界山岳探検会議特別会員、ワシントン州名誉市民、ニューヨーク映画祭ゴールデンイーグル大賞(南極)、国際探検映画祭・冒険探検特別賞、内閣総理大臣表彰、フランス政府スポーツ青少年功労賞金賞、スーパーバラ・ゴルカ・ダクシナ・バフ勲章(ネパール政府)、青森名誉市民、弘前市民栄誉賞、青森名誉市民特別功労賞、青森県民栄誉大賞、深川市民栄誉賞、日本スポーツグランプリ賞、北海道民栄誉賞、東京都名誉都民 他

※ 2013年6月 「三浦雄一郎記念冒険家大賞」が日本政府により創設される。